

京師帝國大學法學科大學

經濟論叢

第二卷 第四號

論說

● 雜種稅ノ分析及其整理

● 奢侈ト貧困

● てがらゐるごひゆゝむノ經濟學說

研究

● 不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

● 保險ト偶然性

● 本多利明ノ經濟說

雜錄

● 英國經濟政策ノ變轉期

● 貧民ノ體力ニ就イテ

● 英國ノ戰爭利得稅

● 本邦私出產ヲ死産

● 歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

● 郷土ノ經濟的研究

● 所有權ノ起源

● 紙幣ノ下落

● 經濟學讀書會記事

● 富田博士ヲ悼ム

法學博士 神戶 正雄

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 徳三

山口高等商業學校教授 作田 莊一

法學士 小島昌太郎

講師 本庄榮治郎

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學博士 小川 郷太郎

教授 財部 靜治

助教授 山本美越乃

法學博士 神戶 正雄

講師 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

講師 高田 保馬

法學博士 織田 萬

奢侈ト貧困

法學博士
河上肇

目次

- 一、序言——問題ノ意義
- 二、需要ハ一國ノ生産力ヲ支配ス
- 三、社會問題ハ分配問題ニ非ズシテ生産問題ナリ
- 四、奢侈ニシテ全廢サルレバ貧困ハ根絶ス
- 五、餘論——經濟組織ノ改造

一、序言——問題ノ意義

本論ノ主眼トスル所ハ、奢侈ガ貧困ノ根本原因タルコトヲ明カニスルニ在ル。最モ余ガ茲ニ奢侈ハ貧困ノ根本原因ナリト云フハ、奢侈ニ耽ル者ハ其人自身ガ纏テ貧困ニ陥ルヲ免レズト云フ意味デハ無イ。言フココロハ、富裕ナル社會一部ノ人々が奢侈的消費ヲ爲スト言フコトガ、他ノ多數ノ人々ヲシテ其貧困状態ヲ脱スル能ハザラシムル根本原因ナリト云フニ在ル。

思フニ巨萬ノ富ヲ擁スル世ノ富豪翁ニシテ、例ヘバ其愛嬢ノ衣裳ノ爲ニ千金ヲ投ズル時、之ニ依リテ已等ガ飢エタル貧兒ノ口ヨリ其食物ヲ奪ヒツツアリナド云フコトハ、彼等ノ全然夢想ダモセヌ所デ有ラウ。恐ク彼等モ普通人ト等ク、又ハ普通人以上ニ人情ニ敦キ善人ニテ、其愛嬢ノ衣裳ノ爲ニ千金ヲ費スガ如キハ、自己ノ身分ニ應ジ勿論當然ノコトニテ、已等ガ斯カル事ニ金ヲ使ヘバ、コソ始メテ世間ノ商人ヤ職人ニ仕事モアリ儲ケモアリテ、彼等ハ之ニ依ツテ漸ク其生計ヲ支エツツアルト云フ位ニ想像シテ居ルノガ普通デ有ラウ。乍併、之ハ全ク誤解デアアル。而シテ此誤解ノ爲ニ——經濟學ノ初步ヲ學ビタル者ニハ、殆ド説明ノ必要サヘ無カルベキ

此誤解ノ爲ニ、今日ノ如キ文明ノ世ノ中ニ多數ノ人々ハ貧困ニ苦ミツツアル。學問上ニハ滑稽トモ見ユル此誤解ガ、實際上ニハ戰慄スベキ悲劇ヲ生ジツツアル。コレ余ガ茲ニ此ノ自明ノ問題ニ筆ヲ執ラントスル所以デアアル。

二、需要ハ一國ノ生産力ヲ支配ス

何ガ故ニ吾人ハ奢侈ヲ以テ貧困ノ根本原因ナリト爲ス乎。何ガ故ニ吾人ハ富裕ナル社會一部ノ人々ノ奢侈的消費ヲ以テ、他ノ多數ノ人々ガ其貧困状態ヲ脱スル能ハザル根本原因ナリト爲ス乎。之ヲ明カニセンガ爲ニハ、先ヅ今日ノ經濟社會ニ於イテ社會ノ生産力ヲ支配スル根本ノ力ハ何デアアル乎ヲ明カニスル必要ガアル。一言ニシテ之ヲ蔽ヘバ、今日ノ經濟社會ニ於テ其生産力ヲ左右スル力ヲ有スル者ハ所謂需要デアアル。⁽¹⁾茲ニ需要トハ購買力ヲ伴ヘル要求ノ謂デアアル。而シテ今日ノ經濟組織ハ、此ノ購買力ヲ伴ヘル要求ヲノミ顧ミ、如何ニ痛切ナル要求ト雖モ、苟クモ購買力ヲ伴フモノニ非ザル限り、凡テ之ヲ無視シテ顧ミザルヲ以テ其特徴トスル。蓋シ多少ノ專賣官業ヲ除クノ外、一切貨物ノ生産ハ之ヲ私人ノ營利事業ニ委任シ置クコトガ、現代經濟組織ノ原則デアアル。故ニ今日ノ經濟社會ニ於イテ生産サル

1) See, Cannan, Wealth, (1914), Chapter VI, The Controlling Power of Demand.

ル所ノ貨物ノ種類及ビ分量ハ、之ヲ生産シ賣却スルコトニ依リテ最も多クノ利潤ヲ收メ得ラルル範圍ノモノニ限ラル。即チ世上ニハ如何ホド痛切ナル要求アリトモ、其要求ニシテ購買力ヲ伴ハザル限り、換言スレバ其要求ガ資力アル人ノ要求ニ非ザル限り、縦ヒ其要求ニ應ジテ貨物ヲ生産ストモ、相當ノ代價ヲ出シテ之ヲ購買スル者ナク、從ツテ之ガ生産者ハ充分ノ儲ケヲ得能ハザルガ故ニ、其生産ハ差控エラルルコトト爲ル。又或程度マデハ之ヲ生産スルモ、一定ノ程度ヲ超過スル時ハ、其需要ニシテ限リアル以上、之ガ賣價ハ自ラ下落シ、從フテ生産者ノ利潤モ亦減少セザルヲ得ザルガ故ニ、或程度以上ニハ之ガ生産ヲ制限スルコトト爲ル。此ノ如クニシテ、世上ニハ如何ホド痛切ナル要求アル貨物ナリトモ、其貨物ノ要求者ガ資力アル人ニ非ザル限り、是等ノ貨物ハ或程度以上ニ生産サレザルト同時ニ、他方ニ於イテハ如何ニ贅澤ニシテ無益ナル——且多クハ有害ナル貨物ナリトモ、資力アル人ガ之ヲ要求スル限り、之ヲ生産スレバ高ク賣レテ儲ケアルコトト爲ルガ故ニ、此ノ如キ貨物ハ如何ホドニテモ生産サルコトト爲ル。コレ今日ノ社會ニ於イテ、一方ニハ多數ノ貧民ガ日々ノ糧ニモ不足ヲ訴ヘツツアル傍ラ、他方ニハ到ル所ノ店頭ニ無數ノ奢侈贅澤品ガ人目ヲ眩センバカリニ美々シク陳列サレアル所以デアル。

今日ノ經濟組織ニシテ維持セラル、限り又富ノ分配ニシテ不平等ナル限り、而シテ富者ガ其ノ裕カナル資力ヲ以テ種々ノ奢侈贅澤品ヲ需要スル限り、一方ニハ多數ノ貧民ガ日々ノ糧ニモ不足ヲ訴ヘツツアル傍ラ、他方ニハ到ル所ノ店頭ニ無數ノ奢侈贅澤品ガ美々シク陳列サレテ居ルト云フ此ノ不可思議ナル現象ノ跡ヲ絶ツベキ見込ハ無イ。是レ今日ノ社會ニ於イテ『文明ニ對スル失望』(the disappointments of civilization)ノ歎聲アル所以デ有ラウ。

近頃我國ニ起リシ問題ニシテ、此點ニ關シ最モ能ク現代經濟組織ノ真相ヲ説明セルモノハ、所謂米價調節ノ問題デアアル。米ハ我國民ノ常食トスル所デ、我國民ニトリ最モ太切ナル生活ノ必需品デアアル。サレバ米ガ豊富ニ生産サレ、其價格ガ低廉ニナルト云フコトハ、吾々ノ生活ニトツテ最モ悅バシキコトデ、現ニ政府ハ種々ノ方法ニ依リテ頻リニ米ノ生産増加ヲ奨励シツツアル。然ルニ所謂米價調節問題ナルモノハ、如何ニセバ此米價ヲシテ或程度以上ノ高價ヲ維持セシメ得ルカト云フコトノ問題デアツテ、政府ハ此問題ノ解決ノ爲ニ、或ハ少カラヌ資金ヲ支出シテ米穀ヲ買上ゲタリ、或ハ全國ヨリ委員ヲ召集シテ會議ヲ催シナドシタノデアアル。一方ニハ米價高直ナルガ爲ニ、人並ミニ日本米ヲ常食トスルヲ得ズ、又纒ニ之ヲ常食トセ

ル者ニ在リテモ、月々ノ米代ノ支拂ニハ頭ヲ惱ス者少カラザル現在ノ日本ニ於イテ、他方ニハ爲政者ヤ學者ガ米價ノ釣上ゲニ苦心セテバ爲ラヌト云フノデアルカラ、事物ヲ公平ニ考フル人ヨリ見レバ、之ハ如何ニモ不思議ノ現象デアルト謂ハテバ爲ラヌ。吾々學問ニ從事スル者ハ、斯カル不可思議ノ現象ニ對シ之ガ應急ノ政策ヲ講ズル以外、別ニ之ガ根本ノ解決ニ對シテ多少ノ思ヒヲ致サテバ爲ルマイ。

三 社會問題ハ分配問題ニ非ズシテ生産問題ナリ

今日ノ經濟社會ニ於イテハ能ク生産超過(over-production)ト云フコトガ起ル。米ノ供給ガ多クテ其價格ガ下落シ是ガ爲ニ農業者ガ困ルト云フガ如キハ、即チ所謂生産超過ノ一例デアアル。乍併、茲ニ生産超過ト謂フハ、其生産額ガ世間ノ要求額以上ニ超過シタト云フ意味デハ無イ。只之ヲ一定ノ價格以上ニ賣却センガ爲ニハ其供給額ガ多キニ過グルト云フダケノ意味デアアル。此ノ如ク、貨物ノ生産額ガ世間ノ要求額ニ達セザルニ先チ、早クモ所謂生産超過ヲ惹起シ、之ガ生産ヲ制限セテバ爲ラヌト云フ所ニ、現代經濟組織ノ缺陷ガアル。

何レニシテモ、今日ノ經濟社會ニ於イテハ、貨物ノ生産額ガ世間ノ要求額ニ達セ

ザル以前ニ於イテ早クモ生産制限ヲ行フノ必要アルガ故ニ、生活必需品ノ生産額ハ實際ニ於イテ甚シク不足シテ居ルノデアル。健康ノ維持ニ必要ナルダケノ衣食住ヲ社會凡テノ人々ニ向ツテ支給スルガ爲ニハ、今日ノ生産額デハ不充分ナノデア。此意味ニ於イテ、今日ノ社會問題ハ、分配ノ問題デナクテ生産ノ問題デアル。⁽²⁾今日生産サレツツアル生活必需品ヲ如何ニ都合好ク分配シタリトテ、最初カラ生産總額ガ不足シテ居ルノデアルカラ、其デ問題ノ解決サル可キ望ミハ無イ。其ヨリモ生活必需品ソノモノノ生産ヲ増加スルノ工夫ヲ講ズルコトガ先ヅ肝要ナノデア。乍併、現代ノ經濟社會ニ於イテハ、前既ニ述ベシ如ク、縱ヒ要求アルモ需要ナキ所ニハ貨物ノ生産ガ行ハレヌカラシテ、生活必需品ノ生産ヲ増加スルト云フコトガ實ハ極メテ困難ナ事業デナル。蓋シ凡テノ教科書ニ説クガ如ク、貨物ノ消費ニ關シテハ所謂享樂遞減ノ法則ナルモノガ行ハレテ居ル。嘗テ皆川淇園ガ『酒數獻ニイタルルトキハ味ナク、肴數種ニオヨブトキハ美ミナク、煙草數フクニ及ブトキハ、ニガミヲ生ジ、茶數椀ニオヨブトキハ香バシカラズ』ト云ツタノガ即チ其レデア。而シテ生活必需品ニ在ツテハ、此法則ノ實現サレル度合ガ殊ニ急激デア。是ノ故ニ、如何ニ富裕ナル人々ト雖モ、其ノ生活必需品ニ對スル需要ニハ自ラ限リアルモノデ、

2) See, Chiozza-Money, Riches and Poverty, (10 ed., 1910) and his Preface to Reason's Poverty (1909). p. VII.

例へば如何ニ充分ナル所得アレバトテ其所得ヲ以テ限りナク米ヲ買フモノデハ無イ。如何ニ富豪翁ナレバトテ其胃袋ノ大キサハ左シテ貧民ト違ハネバ其食欲ヲ充ス爲ニ需要スル米ノ量ニハ自ラ限りガアル。ソコデ其ノ餘裕ノ金錢ヲバ、生活必需品以外ノモノヲ需要スル爲ニ消費スルコトニ爲ル。然ルニ今日ノ經濟組織ノ下ニ於イテハ、需要ナキ貨物ハ、全ク顧ミラレザルト同時ニ、需要サヘアラバ如何ナル貨物ニテモ生産サレルノデアル。サレバ餘裕アル人々ニシテ、生活必需品ハ餘リ多ク之ヲ需要セズ、却テ種々ノ奢侈贅澤品ニ向ツテハ限りナク之ヲ需要セントスル限リ、社會ノ生産力即チ資本ト勞力トハ、大部分是等ノ奢侈贅澤品ノ生産ノ爲ニ吸收サレテ仕舞ツテ、他方生活必需品ノ生産ハ到底或程度以上ニ擴張サレ能ハザルコトト爲ルノデアル。

尤モ如何ニ貧民ナリトテ、消費スベキ貨幣ヲ全ク所持セザル者ハナキ故、彼等ト雖モ生活必需品ニ向ツテ全ク需要ヲ起シ得ザル譯デハ無イ。只問題ハ、彼等ノ需要ノ力ガ弱クテ小サイガ爲ニ起ル。即チ彼等ハ充分ナル所得ヲ有セザルガ爲ニ、如何ニ彼等ノ生活ニトリテ必要ナル物資ト雖モ、彼等ハ之ニ向ツテ或程度以上ノ代價ヲ支拂フコトガ出來ヌ。然ルニ他方ニハ巨萬ノ富ヲ擁スル者ガアツテ、其等ノ者ガ

縱ヒ彼等ノ生活ニトツテハ實際上何等ノ益ナキ物ト雖モ、兎モ角有ルニ任セテ種種ノ奢侈贅澤品ニ向ツテ高價ヲ支拂フヲ辭セザルガ故ニ、多數貧民ノ需要ハ競争上是等有力ナル需要ノ爲ニ壓倒サレ、社會ノ資本ト勞力ノ大部分ハ是等有利ナル事業家ヨリ見テ有利ナル奢侈贅澤品ノ生産事業ノ爲ニ注入サルルコトニ爲ルノデアル。

四 奢侈全廢サルレバ貧困ハ根絶ス可シ

以上述ブル所ニ依ツテ考フレバ、今日生活必要品ノ生産ガ不足シテ、其價格ガ高ク、從ツテ社會多數ノ人々ガ貧困状態ニ陥ツテ居ルノハ、社會多數ノ人々ガ貧乏デ其需要力ガ弱小ナ爲デアルト云フコトガ分ル。即チ貧乏人ノ多イノハ貧乏人ノ多イ爲デアルト云フコトニ歸着シテ仕舞フノデ、サウナレバ問題ハ循環シテ元ニ還ツタカノ觀ガアル。併シ實際ノ世相ハ即チ之ニ外ナラヌ。而シテ吾等ノ任務ハ、此ノ因果ノ循環シテ一見スレバ殆ド之ヲ截斷スルニ由ナキ一連ノ鎖ヲバ、其急所急所ヲ捉ヘテ因果ノ循環ヲ停止セシムルニ在ル。今此意味ニ於イテ、余ハ貧困問題ノ解決ノ爲ニ二個ノ方策ヲ立シ得ベシト信ズル。

其一ハ餘裕アル階級ノ人々ガ其奢侈的消費ヲ出來得ベキダケ節減シ、能フベク

シバ全ク之ヲ廢止スルコトデアル。思フニ從來學者ノ奢侈ヲ説ク、其根本ノ概念ニ於イテ甚ダ吾人ノ意ヲ得ザルモノガアル蓋シ從來ノ見解ニ從ヘバ、奢侈的消費ト然ラザルモノトノ區別ハ各個人ノ所得ノ大小ヲ以テ標準トシタモノデアアル。例ヘバ巨萬ノ富ヲ擁スル者ガ一襲ノ衣服ニ千金ヲ費スガ如キハ、其身分地位ヨリ考ヘテ適當ノ消費ナルガ故ニ、此ノ如キハ彼等ニトリテハ敢テ奢侈的消費ト謂フベキニ非ザルト同時ニ、人力車夫ガ晚酌ニ刺身ヲ用ウガ如キハ、其所得ニ比較シテ過分ノ消費ナレバ、彼等ニトリテハ奢侈的消費ト謂ハザルヲ得ズト説明スルガ如クデアアル。乍併、余ガ茲ニ奢侈費ト云ヒ必要費ト云フハ、此ノ如ク各個人ノ所得ヲノミ標準トスルモノデハ無イ。余ハ人間トシテノ理想的生活(a fair life as human beings)ヲ營ムガ爲メ——之ヲ分析シテ云ハバ、其肉體的生活(bodily life)其精神的生活(mental life)及ビ其道德的生活(moral life)ノ向上發展ヲ計ルガ爲メ、——更ニ之ヲ言ヒ換フレバ各個人ガ其肉體(Body)其頭腦(mind)及ビ其靈魂(spirit)ノ健康ヲ維持シ其發育ヲ助長シ、進ンデハ社會ニ向ツテ貢獻スルガ爲メ必要ナル消費ハ、各個人ノ所得如何ニ係ラス凡テ之ヲ必要の消費ト認メ、斯ル目的ニ向ツテ必要ナラザル消費ハ、凡テ之ヲ奢侈的消費ト名ケントスル者デアアル。サレバ縦ヒ百萬長者ニシテ一襲ノ衣服ニ千

3) See, Withers, Poverty and Waste, 1914.

金ヲ投ズルガ如キハ、其者ノ經濟ニトツテハ何等痛痒ヲ感ゼザルコトナリトモ、其消費ニシテ其人ノ生活ニトリ眞實有用ナラザル限り、余ハ之ヲ以テ奢侈的消費ト認め、又日々五十錢ノ所得サヘナキ勞動者ガ酒ヲ飲ミ肉ヲ食フガ如キハ、其者ノ經濟ニトリテ甚ダ不適合ノコトナリトモ、斯カル消費ガ其人ノ健康ヲ維持スル等ノ目的ノ爲メ眞實必要ナル限り、余ハ之ヲ以テ必要的消費ト認ムル者デアアル。

今定義ノ當否ハ姑ク舍キ、余ガ茲ニ、餘裕アル階級ノ人々ノ奢侈的消費ヲ廢止セシムルコトヲ希望スト云フ場合ノ奢侈的消費トハ、全ク上述ノ如キ意味ヲ有スルモノデアアル。蓋シ普通ニ説明セラルルガ如ク、奢侈的消費ト然ラザルモノトノ區別ヲ各個人ノ所得ノ大小ヲ標準トシテ定メンカ、今日斯カル意味ノ奢侈的消費ヲ爲ス者ハ、或ハ富者ニ少クシテ却テ貧民ニ多キヤモ計ラレズ。コレ余ガ特ニ用語ノ意義ヲ略説シ置ク次第デアアル。

思フニ余ガ謂フガ如キ意味ノ奢侈的消費ヲバ、餘裕アル階級ノ人々ガ凡テ之ヲ廢止スルコトト爲ランカ、一方ニ於イテハ、此ノ如キ不生産的消費ノ節減セラルル結果、新タニ資本ノ増殖ヲ來シ、他方ニ於イテハ、奢侈品ノ生産廢止セラルル結果、從來此ノ如キ貨物ノ生産ノ爲ニ使用サレ居タル資本及ビ勞力モ亦タ解放セラレ、此ノ

如クニシテ新タニ増加サレ又ハ節用サレタル社會ノ生産力ハ盡ク生活必要品ノ生産ノ爲ニ使用セラルルコトト爲リ、其結果、縦ヒ無用有害ノ奢侈品ハ最早ヤ生産サレザルニ至ルモ、有用ナル生活必要品ハ極メテ豊富且廉價ニ供給サル、コトト爲リ、勞働ニ對スル需要ノ増加ニ本ク勞賃ノ騰貴ト相俟ツテ、下層貧民ノ生活ハ全ク其面目ヲ改メ、始メテ天下ヲ擧ゲテ其生ヲ樂ムヲ得ルニ至ルデアラウ。

今日獨逸ガ八方ニ敵ヲ受ケ、戰爭ト云フ恐ルベキ不生産の事業ノ爲メ大半ノ生産力ヲ奪ハレナガラ、多クノ人ノ豫想ニ反シ、今日ニ至ル迄能ク其國民經濟ヲ維持シ來リタル所以ノモノハ、一ニ其國民ガ平生ノ奢侈の消費ヲ中止シタルガ爲デアール。平生無事ノ時、如何ニ國民ノ生産力ガ無用ノ方面ニ濫用サレツツアルカハ、此一例ニ徴シテモ之ヲ悟リ得ラルル。

元來従前ノ學者ガ一切ノ欲望ヲ是認シ、欲望ノ増進ヲ以テ經濟發達ノ動力ト看做シ、寧ロ之ヲ歡迎スルノ傾向アリシハ、偶々資本家の生産制ノ下ニ於イテ企業家ノ探リツツアル見地ヲバ其ノママ受入レシニ過ギヌモノデアツテ、ソコニ一大誤謬ガアル。若シ吾等ニシテ永ク斯カル見地ニ立タンカ、人ノ欲望ハ際限ナキガ故ニ、如何ニ生産事業ハ發達スルモ、人生ノ經濟的解決ハ之ヲ永久ニ期シ難キコトモ爲

ラン。此點ニ於イテろつせるノ見地ハ、慥ニ群ヲ拔ク所アルガ如クニ思ハレル。氏ハ
嘗テ財ヲ定義シテ *Güter nennen wir alles dasjenige, was zur mittelbaren oder unmittelbaren*
*Befriedigung eines wahren menschlichen Bedürfnisses anerkannt branchbar ist*³⁾ト述ベタ⁴⁾而シテ此
定義ハ妄リニ倫理學ヲ經濟學ニ輸入シ來リタルモノナリトテ多クノ學者ノ非難
スル所ナレドモ、余ハ此ノ『眞實ナル』人間ノ欲望ト云フ概念ハ、經濟學ノ基礎概念ト
シテ缺ク可ラザルモノノ一ト信ズル。思フニ斯カル眞實ナル人間ノ欲望ノ充足ニ
ノミ用キラルベキ貨物ノ生産ニシテ既ニ充分ノ程度ニ達スル以上、其ニテ人生ノ
目的ヲ達スル爲ノ一手段タル經濟ノ使命ハ終リヲ告グル。此意味ニ於イテ、眞實ナ
ル欲望ノ充足ニ用キラルベキ必需品ノ生産ノ未ダ甚シク缺乏セルニ係ラズ、眞實
ナラザル欲望ノ充足ニ用キラルル奢侈品ノ生産ノ爲ニ其ノ大半ノ力ヲ割キツツ
アルガ如キ現代ノ經濟狀態ハ、全ク經濟本來ノ使命ヲ忘却シタモノデアル。

今余ハ經濟本來ノ使命ヲ完ウセシメンガ爲ニ、餘裕アル社會ノ人々ガ其奢侈的
消費ヲ全廢センコトヲ希望スル者デアアル。此點ニ於イテ余ハ多數ノ勤儉貯蓄論者
ト其見地ヲ異ニスルト信ズル。普通勤儉貯蓄ヲ説ク者ハ、殆ド富者ヲ顧ミズシテ專
ラ之ヲ貧民ニ向ツテ説ケドモ、余ヲ以テ見レバ、勤儉貯蓄ハ之ヲ有産者ニ向ツテ説

4) Rosher, System der Volkswirtschaft, I Band, 1888, S. 2.

クベク、之ヲ無産者ニ向ツテ説クベキモノダハ無イ。余ハ又此點ニ於イテ社會問題ノ論者ノ多クト多少其見地ヲ異ニスルト信ズル。社會問題ノ論者ノ多クハ、此問題ノ解決ノ爲メ先ツ勞働者ノ自覺ヲ必要トスルニ反シ、余ハ以上述べタルガ如キ意味ニ於イテ、富裕者ノ奢侈的消費ヲ制限センガ爲メ、寧ロ先ツ彼等ノ自覺ヲ希望スル者デアアル。

五 餘論——經濟組織ノ改造

以上余ハ貧困問題解決ノ第一策トシテ、餘裕アル階級ノ人々ガ其奢侈的消費ヲ全廢スベキコトヲ掲ゲタ。思フニ此方策ノ實現ノ爲ニハ、勿論國家ノ力ヲモ必要トスレド、奢侈品ノ消費ニ重税ヲ課スルノ類ヲ指ス、生活必需品ノ課税又ハ專賣ニ重キヲ重ケル我國現時ノ政策ニ對シテハ、余ハ此點ニ於イテ多大ノ遺憾ヲ有ス、窮極ハ之ヲ各個人ノ抑制ニ俟ツノ外ハ無イ。但シ餘裕アル人々ニ向ツテ其餘裕ヲ浪費セザレト希望スルノデアアルカラ、事ノ實行ハ極メテ困難デ有ラウ。而カモ余ノ信ズル所ニ依レバ、之ガ現代經濟組織ノ下ニ於イテ考ヘ得ラルベキ社會問題解決ノ唯一ノ根本策デアアル。サレバ若シ此ノ第一策ニシテ實行サレ得ズトナラバ、余ノ考ヘ得ル限リニ於イテハ、現代ノ經

濟組織ソノモノヲ改造シテ、組織ノ上ヨリ、先ヅ生活ノ必需品ニ向ツテ社會ノ生産力ヲ集中セシムルノ策ヲ講ズル外ニハ、別ニ貧困絶滅ノ根本策ハナイ。元來今日ノ經濟組織ナルモノハ貨幣價值ヲ以テ凡テノ價值ヲ代表セシムルノ仕組デアアル。サレバ種々ノ貨物ニ對スル世人ノ要求ヲ比較スルニ當ツテモ、多額ノ貨幣ノ提供スルモノヲ以テ有力ナル要求ト看做シ、先ヅ其要求ヲ充ス、以テ原則トシテ居ル。故ニ今日ノ經濟組織ノ下ニ於イテハ、既ニ繰返ヘシ説明セルガ如ク、富裕者ガ其奢侈的消費ヲ節減セザル限り、生活必需品ノ生産ハ如何ニシテモ不足セザルヲ得ザル關係ニ爲ツテ居ル。故ニ富裕者ニシテ飽クマデ其奢侈的消費ヲ節減スルコトヲ欲セス、而カモ國家ハ其ノ健全ナル發達ヲ希望スルノ趣旨ヨリ、飽クマデ貧困ヲ根絶スルノ必要アリトスルニ至ラバ、遂ニハ國家ノ力ニ依リテ現代ノ經濟組織ハ漸次變更ヲ加ヘラルルニ至ルヲ免レヌデ有ラウ。シカシ是等ノ事ニ論及スルハ元ト本論ノ趣旨トスル所ニ非ザルガ故ニ、既ニ論ジテ茲ニ至レル以上、余ハ之ヲ以テ本篇ノ終リトスルデ有ラウ。